第６分科会「特別支援教育の授業づくり」

ボディイメージ獲得のための様々な授業を通した取組

提　　案　さいたま市立大成小学校　教　諭　佐俣　リカ子

１　はじめに

さいたま市は埼玉県の南東部に位置する県庁所在地で、人口約 134 万人の政令指定都市である。近年さいたま市の人口は増加傾向にあり、162 校ある全ての市立小・中学校に「知的障害特別支援学級」と「自閉症・情緒障害特別支援学級」を設置している。また、難聴・言語障害や発達障害・情緒障害における通級指導教室の設置においても年々増設されている。

２　学校の概要

（１）本校について

本校はさいたま市の大宮区に位置し､児童数はここ数年増加傾向にある｡今年度の全校生徒数は 991 名、学級数は通常の学級が 30 学級、特別支援学級が３学級である。学校教育目標として「心豊かで、たくましく、進んで行動する児童の育成」を掲げ、「家庭・地域とともに、粘り強く生き抜く子どもを育てる大成小学校」を目指す学校像としている。

（２）本校の特別支援学級について

本校の特別支援学級である「ひまわり学級」は、平成 28 年に開設され、令和４年度の在籍数は知的障害特別支援学級５名（２年、４年、６年)、自閉症・情緒障害特別支援学級８名（２年、３年、５年）の２学級計１３名である。担当職員は学級担任が２名、スクールアシスタントが１名の計３名である。学習や行事等の活動に意欲的な児童が多く、通常の学級への交流及び共同学習も児童それぞれの実態に応じて行っている。児童の保護者は、行事や授業参観への積極的な参加や必要に応じての細かい連絡等、学級に対して協力的な保護者が多い。

３　取組の実際

本学級の児童は、ダンスやおにごっこ等の身体を動かす活動は好きな児童が多いが、体操やストレッチ等を見ていると手や足の動きがぎこちなく、一つ一つの動きをゆっくり丁寧に行うことが苦手な児童が多い。また、前後左右の位置関係や体の部位の言葉がわからない児童が多く、「右手を上げて」「ひざをまげて」等と指示をしてもすぐにできない児童が多く見られた。そこで令和４年度は、年間を通して身体に関する様々な学習を行っていきたいと考え、本実践に取り組んだ。

（１）教科別の学習においての取組

①図工「自分のからだをかこう」

本学級の児童の人物画を見ると、手足が線だったり、首や指がなかったりする絵を描く児童が多かった。そこで、自分の身体のボディイメージを持たせるために、１学期初めの授業参観で図工を行い、大きい紙に児童が寝転んで保護者に身体の形をなぞってもらい、顔や洋服等を描く作業を行った。自分の身体を客観的に

（写真１　児童の人物画）

見ることで、体のつくりや指の数等、細かいところに気付くことができた。作品は廊下に掲示し、年度末に今の自分と比べることで成長を感じることもできた。（写真１）

②国語「からだの部位の読み書き」

主に低学年の児童の国語の学習では、文字の読み書きや言葉の学習を兼ねて体の部位の言葉の読み書きを練習した。絵を見たり実際に自分の部位に触れたりしながら、プリント学習に取り組み、ひらがなや漢字の練習を行った。

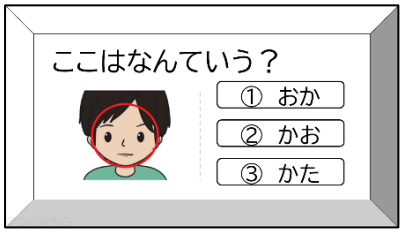
③体育「からだを大きく動かそう」

プロジェクターで動画を映しながら、身体の色々な部分を自分で動かしてストレッチやダンスをすることで、自分でどの部分が動いているか、その部分は何という場所なのか等を意識して行うことができるようになり、模倣や目と手の協応の動きのトレーニングにも繋がった。

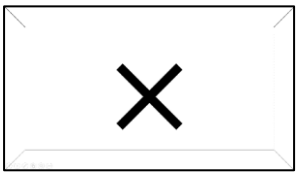
（２）自立活動においての取組

自立活動の時間には、健康の保持や身体の動きの観点から「けんこうなからだになろう」と言う授業を計画して行った。身体の部位の名前を覚えるためのツールとして、教師がパワーポイントで三択クイズを作成し、児童それぞれが自分のタブレットで取り組んだ。クイズとして取り組むことで楽しみながら学ぶことができ、自分の身体の部位とも照らし合わせながら学習することができた。

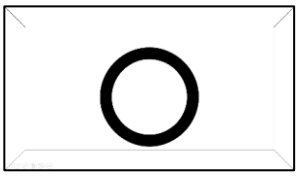
（写真２、３、４）



（写真２　三択クイズ）



（写真３　不正解の時）



（写真４　正解の時）

４　成果と課題

【成果】

様々な教科の学習を通して取り組んだことで、継続的かつ段階的に自分の身体について学習することができた。ボディイメージをもつことで、人物画を描く時に首や指を描くようになったり、体操やダンスの動きの幅が広がったりした。また、部位の場所や名前を知ることで、語彙の獲得だけでなく、けがや体調不良で調子が悪い箇所を自分の言葉で細かく伝えることができるようになってきた。

【課題】

ICT 機器を活用することで、児童の取組は積極的になったが、操作や見ることが主になってしまって直接的な学習になっているのか疑問に感じることがあった。また、問題や選択肢の文字を読むので精一杯の児童が見られたので、読み上げ機能の活用等の工夫が必要であった。年間を通して行うことができた活動ではあるが、次年度にも繋げていけたらより理解が深まるのではないかと考える。

５　おわりに

今回、大きな目標に向かって様々な教科や単元を計画して長期的に取り組むことができた。このような計画で学習活動ができるのは、特別支援教育ならではのことだと思う。今後も児童が様々な方面から学習し、定着を図ることができるような授業づくりを計画し、実践できるよう努めていきたい。